

Ferdinando Frega – Nando the Scribe

THE AMERICAN EGGS



Gillettenarrative.com

Gilletteとアメリカの卵

Gillette Trailer 16 — 書記ナンド

飛行機は着陸したばかりだった。妻も娘も、信じられない思いと疑いの両方を抱えていた。新しい始まりは不確かなものになっていて、これほど大勢の人が別の言葉を話すのを耳にするのは、二人にとってまったく初めてのことだった。

ニューヨークのJFK空港が私たちを迎えていた。私にとっては故郷へ帰ることだった—私の土地へ。かつてアイデンティティの約束だったその土地は、一つの征服、そして新しい展望になっていた。

手短かに言えばこうだ。61年前、コウノトリは私をニューヨークに降ろすはずだったのに、カラブリアの鷹に目がくらみ、すっかり魅了されて、私をアスプロモンテ山地の斜面に置いていくことにした。だがそれはまた別の話だ。

荷物を受け取り、黄色いタクシーに乗った。運転手に行き先を聞かれ、住所を伝えた。すると今度は、どこから来たのか、もともとはどこ出身かと聞いてきた。

私は答えた。「ニューヨークのクイーンズ」

走っているあいだは完全な沈黙。着いたところで料金を尋ねた。「カードなら22ドル。現金なら14ドル」

親しみを込めて彼を見ると、彼は言った。「ナポリで12年働きましてね、こうでもしないと道楽の金が続かないと学んだんです。それに荷物を見て、イタリアから来たんだとわかりましたよ。ニューヨークへようこそ」

家は新しく美しく、通りからの入口は一つきり、上がる段もほんの数段だった。二人の女は顔を見合わせ、沈黙で語り合っていた—だが、生まれつき「女のコード」を内蔵している私には、そのまなざしの奥にある陰影も考えも読み取れた。

「着いたよ、わが家だ」と私は二人に言った。「あとで食料を買いに行ってくる」

食料を仕入れに出た。スーパーマーケットは好きではない。Walmartは誰でも迎え入れるが、客はWalmartで高い代償を払う。私の仕入れ先は今も地元の小さな店だ。ひと言ふた言、あるいは冗談を交わすだけで本物のニュースが集まり—自分の人生について書ける、そういう場所である。

「で、卵はね、ジャック、新鮮なのはどこで買える？」

「この通りの裏に、カンっていうトルコ人がいる。自分のめんどりを何羽か飼っていて、大事に見張ってるよ。探してるものがあるか、のぞいてみな」

数歩で着いた。彼はイタリア語まで話した—そして驚きはそこから始まった。

彼は私を店の奥へ連れていき、めんどりを見せてくれた。数えると9羽しかおらず、そのうちの1羽は翼にイタリア国旗の色のワッペンをつけていた。気になって、どういう意味かと尋ねた。

彼は誇らしげに言った。「あれはカミッラ。イタリアから来たんです、ナポリの—フォルチェッラ地区から。叔父がくれましてね。素晴らしい卵を産むんですよ。産みたてをそのまま飲む卵で、火を通す必要がない。うちのご婦人方には化学的なものは一切食べさせません—自然の餌だけ、トルコでやるようにね」

試してみるかと聞かれ、もちろん私は応じた。「これ以上の機会がありますか」

店の中の小さなテーブルに座っておしゃべりをしていると、彼が卵を三つのせた皿を持ってきた。

「うちのカミッラが産んだばかりです。ナンド、あなたは運のいい人だ」と彼は言った。

触ると温かかった。話を続ける前に、彼が腰を下ろすのを待った。

飲み物は何がいいかと聞かれた。「アメリカンコーヒーをお願いします」

一つ目の卵に穴を開けようとした—が、穴が開かない。もう一つ試し、それから最後の一つも。

三つとも固ゆでだった。

.....奇跡だ。ここはアメリカなのだ。

すでにゆで上がった卵を産むめんどり—火を通す必要がない。私は驚きも動揺も見せなかった。ただカンに、カミッラをいくらなら売ってくれるかと尋ねた。なぜかと彼は聞いた。

彼は微笑んだ。「卵、気に入りましたか」

めんどりが大好きな娘にあげたいのだ、と私は言った。

心の中ではこう考えていた。100万ドルのプロジェクトか.....それとも、これから正体を見きわめるべき詐欺か。

金を払い、別れを告げて店を出た。誰にも何も言わなかったが、翌日、また行った。

「おはようございます、カン。今日もまた、飲める卵をいくつかもらえますか」

「もちろん。どうぞ掛けてください。すぐお持ちします」

「鶏小屋に入って、カミッラからじかにもraitainんですが」

「すみません、ナンド、あの子はゆうべ誕生日パーティーで料理してしまいまして。でも別の卵をお持ちしますよ」

同じ儀式、同じテーブル、同じ皿。新鮮な卵が三つ、飲むための卵—だが今度もまた固ゆでで、あとは食べるだけだった。

金を払い、店を出て、思った。アメリカン・ドリーム。

それとも.....向こうのほう私が私を探していて—まだ見つけられずにいるのだろうか。

アメリカへようこそ

ナンド